



## アレルギーっ子に安心を届けたい

さわいり さちよ  
**澤入 幸代** さん

### PROFILE

さわいり さちよ(大山区・38)  
御前崎アレルギーっ子の会発起人の1人。  
子どもが3人も食物アレルギー、自身も  
軽度のぜんそくを抱える。

### アレルギーの危険性

「おまえざきアレルギーっ子の会」は災害時にアレルギーを持つ子どもをどう守るかを考える組織だ。平成29年8月に発足した同会の発起人の一人である澤入幸代さん。澤入さんの3人の子どもは、それぞれが別々の食材にアレルギーを持っている。澤入さんが同会の発足を考えたきっかけは、阪神淡路大震災の時にあったアレルギーを持つ子どもの死亡事故の話。「親が行方不明になり、独りで避難所にいたピーナツアレルギーの子どもが、誤ってピーナツを食べてしまい命を落とした。その話を聞き、被災時に自分が子どものそばに居るとは限らない。どうにかしないと「思った」と話す。

### 子どもを守る取り組み

同会では災害時に家族以外にも、アレルギーの原因食材や症状などが分かるカード作りを計画したり、ビニール袋を使い、アレルギーに対応した非常食の作り方を体験したりといった活動をしている。また、NPO法人災害支援ネットワークとも連携し、災害時に同会登録者にアレルギー対応食を届けられる仕組み作りにも取り組んでいる。澤入さんは「被災時にアレルギーに対して注意を払う余裕があるか分からない。災害時でもアレルギーを持つ人が安心して食事できる体制を整えたい」と語る。

### まずは知ることから

「もっと多くの人にアレルギーのこと、災害弱者のことを知ってほしい」それが澤入さんの願いだ。身近にアレルギーを持つ人がいないと、アレルギーの実態を把握する機会はありません。「近年はアレルギーを持つ人が増え、理解も広がってきたがまだまだ知らない人も多い。アナフィラキシーという、気道狭窄による窒息や急激な血圧低下によるショック症状などが現れることもある。特に避難所運営に携わる人たちには、命を落とす危険性があることも理解してほしい」と切実な願いを持ち、活動を続ける。理解の広がりを守る命がある。澤入さんの取り組みが子どもたちの未来を守る。